

諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 20 年 12 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

爆発的噴火¹⁾は 17 回発生し、小規模な噴火も時々発生しました。諏訪之瀬島ではこれまでも長期にわたり噴火を繰り返しています。

今後も、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

12 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 2、図 4、図 5）

爆発的噴火¹⁾は 17 回発生し、小規模な噴火も時々発生しました。諏訪之瀬島ではこれまでも長期にわたり噴火を繰り返しています。

噴煙の最高高度²⁾は、11 日の噴火に伴うもので 1200m（11 月：1600m）でした。

十島村諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約 4 km）で 2 日に降灰が確認されました。

・地震、微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の月回数は、A 型地震が 27 回（11 月：11 回）で、B 型地震の月回数は 9 月頃より多い傾向でしたが、132 回（11 月：760 回）と減少しました。

火山性微動の月回数は 47 回（11 月：540 回）と、減少しました。

火山性微動の継続時間合計は 7 時間 12 分（11 月：193 時間 52 分）でした。

・上空からの観測（図 4、図 5）

12 月 16 日に海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施した上空からの観測では、御岳火口周辺の状況等に特段の変化はありませんでしたが、火口内に溶岩頭³⁾を視認しました。

- 1) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 2003 年 3 月 28 日以降、噴煙の最高高度は遠望監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。
- 3) 溶岩が火口底に現れたもので、過去に火山活動が活発だった時にも観測されています。

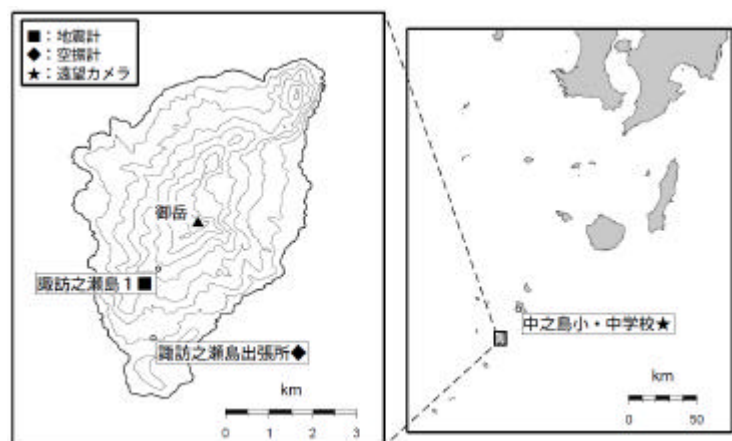


図 1 諏訪之瀬島 観測点配置図

地図の作成に当っては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号：平 20 業使、第 385 号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 21 年 1 月分)は平成 21 年 2 月 6 日に発表予定です。

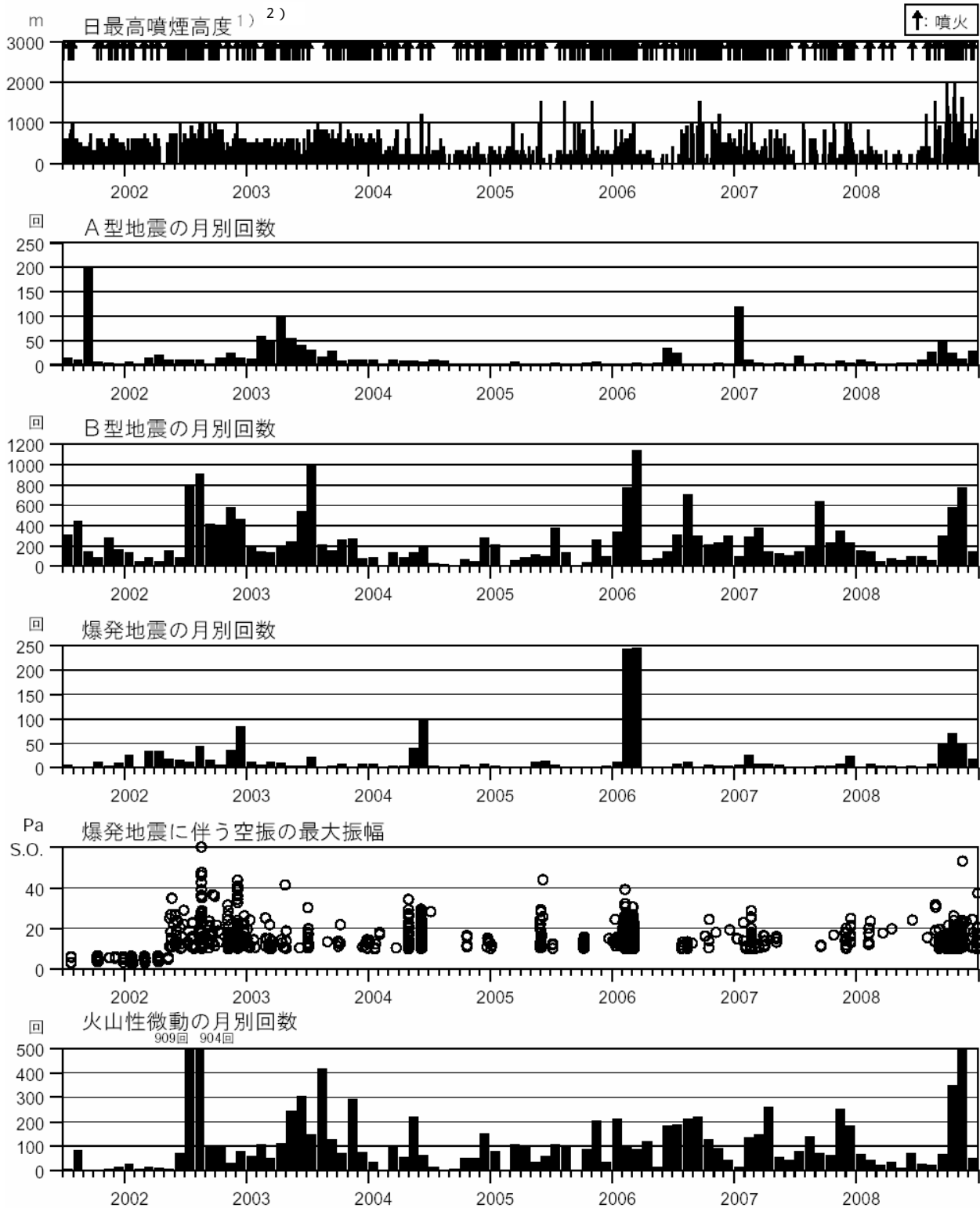


図2 諏訪之瀬島 火山活動経過図(2001年7月～2008年12月)

- ・爆発的噴火¹⁾は17回発生（11月：46回）し、小規模な噴火も時々発生しました。
- ・噴煙の最高高度²⁾は11日の噴火に伴うもので1200m（11月：1600m）でした。
- ・A型地震は27回（11月：11回）、B型地震の月回数は132回（11月：760回）と、減少しました。
- ・火山性微動は47回（11月：540回）でした。

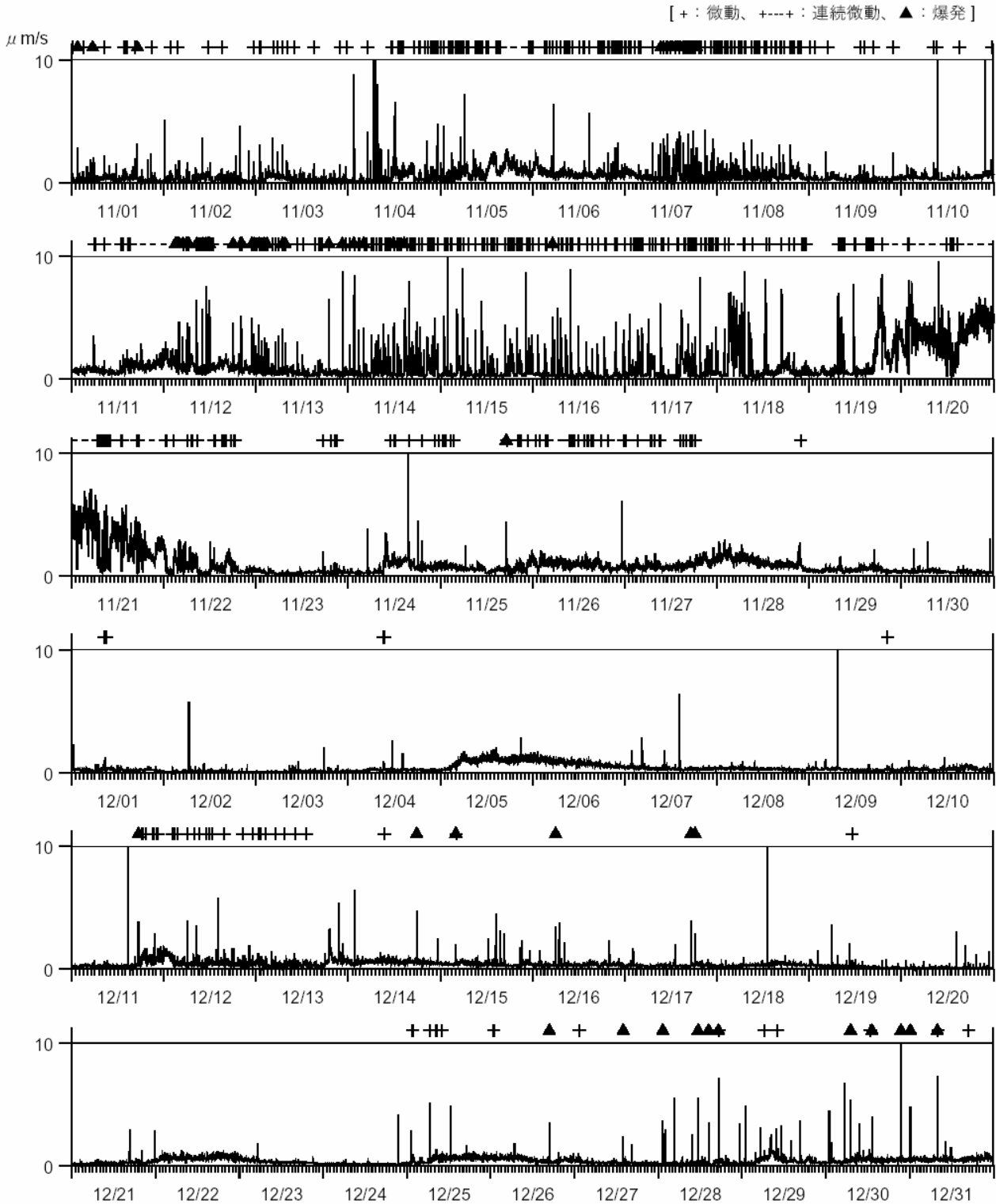


図3 諏訪之瀬島 1分間平均振幅の時間変化（SWA1上下成分）（2008年11月～12月）
火山性微動の継続時間月合計は7時間12分（11月：193時間52分）でした。



図4 諏訪之瀬島 可視画像（12月16日海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力による）
 写真左：火口全景（北東側から撮影） 写真右：溶岩頭付近を補正したもの
 御岳火口周辺の状況等に、特段の変化はありませんでしたが、火口内に溶岩頭³）を視認しました。

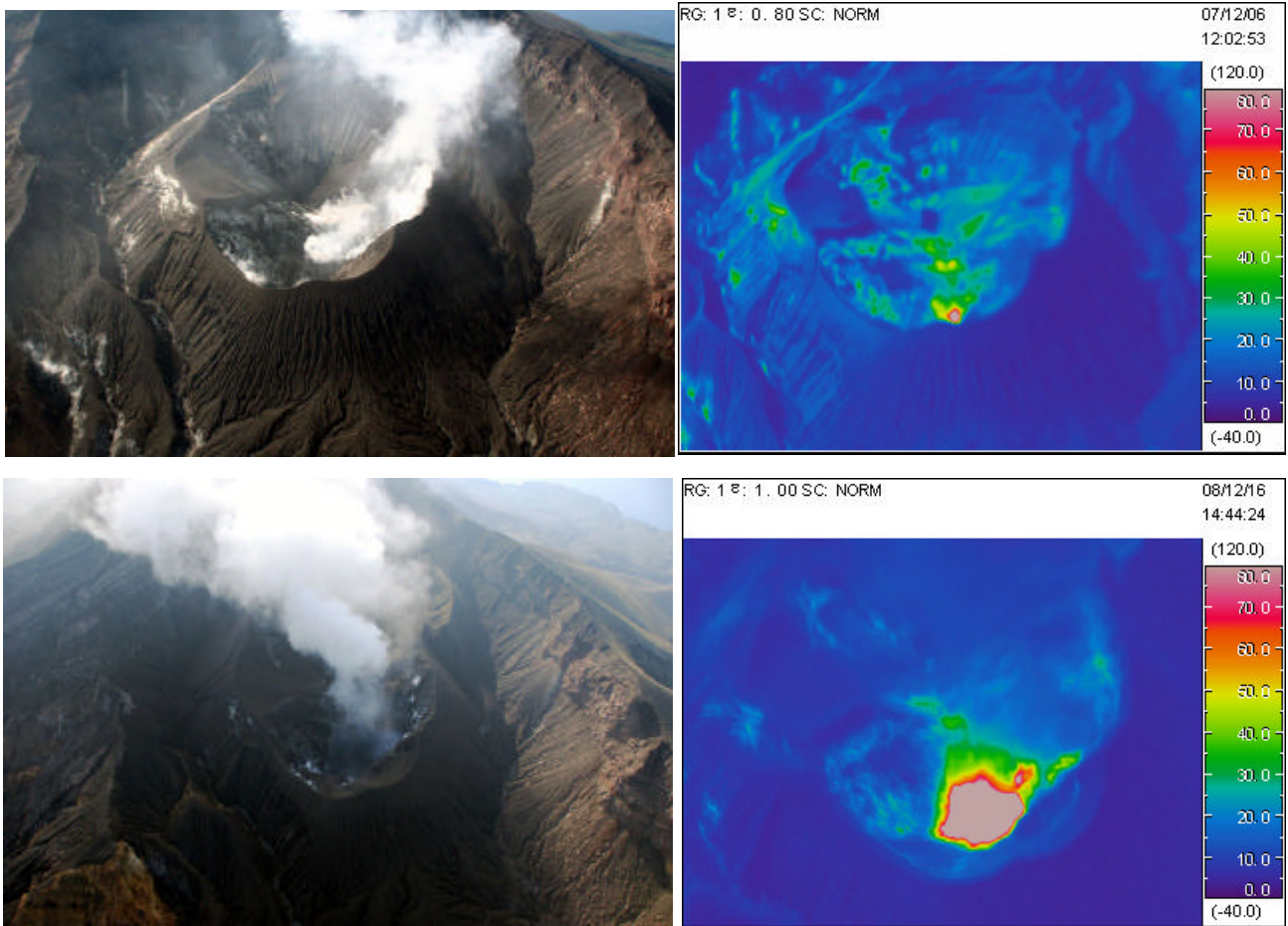


図5 諏訪之瀬島 可視画像及び熱映像（海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力による）
 写真上 2007年12月6日 写真下 2008年12月16日
 熱異常域が火口底全体に広がっています。

